

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Selective serotonin reuptake inhibitors and risk of major congenital anomalies for pregnancies in Japan: A nationwide birth cohort study of the Japan Environment and Children's Study.

和文タイトル: 日本における妊婦の選択的セロトニン再取り込み阻害薬服用と先天異常との関連: エコチル調査より

ユニットセンター(UC)等名: 宮城UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Congenital Anomalies

年: 2017 月: 5 巻: 57 頁: 72-78

筆頭著者名: 西郡 秀和

所属UC名: 宮城UC

目的:

日本における妊婦の選択的セロトニン再取り込み阻害薬服用と先天異常との関連を明らかにする。

方法:

単胎妊娠 95,994名を対象に、妊娠判明から妊娠12週頃までの選択的セロトニン再取り込み阻害薬服用と先天異常との関連を解析した。

結果:

単胎妊娠 95,994名中、妊娠判明から妊娠12週頃までの選択的セロトニン再取り込み阻害薬を服用した妊婦は172名だった。多重ロジスティック解析の結果、妊娠判明から妊娠12週頃までの選択的セロトニン再取り込み阻害薬服用は、児の泌尿生殖器系の先天形態異常のリスク(オッズ比3.23)であった。

考察:(研究の限界を含める)

日本における初の前方視的研究結果である。本研究の限界として、エコチル調査では選択的セロトニン再取り込み阻害薬は細分類(フルボキサミン、パロキセチン、セルトラリン、エスシタロプラム)されて調査されておらず、また摂取量が調査されていないので、これらの項目での解析は行っていない。また泌尿生殖器系の先天異常を細分類した結果ではないので、結果の解釈は慎重を要する。

結論:

本研究の結果では、妊娠初期の選択的セロトニン再取り込み阻害薬服用は、泌尿生殖器系の先天形態異常のリスクであることが示された。